

第13回政治家と科学者の対話の会（2026年6月30日）において 議員とEAI会員が共有した考えのポイント

1. 幼児期から高等教育まで一貫した研究倫理教育の必要性

研究倫理は研究者だけが学ぶものではなく、幼児期から高等教育まで発達段階に応じて継続的に育むべきものであり、知識だけでなく倫理観や社会性を養う教育として体系化することの重要性が共有された。

2. AI時代・人新世に対応した新たな倫理観の構築

AIの急速な発展や人新世における社会環境の変化を踏まえ、人間中心の従来の倫理に加え、自然環境や未来世代との共生を視野に入れた普遍的な倫理観を育成する必要性が示された。

3. 科学への興味・探究心を育む教育と体験の重要性

子どもたちの科学への興味や探究心を育てるためには、知識の習得だけでなく、身体性や実体験、芸術性、「センス・オブ・ワンダー」を重視した教育が重要であり、学ぶ意欲そのものを育むことが必要との認識が共有された。

4. AI時代に求められる人材育成の方向性

AIの普及が進む中では、専門知識や技能に加え、倫理観、リーダーシップ、自己理解、創造性など、人間ならではの能力を育成することが今後の人材戦略の中核となるとの考えが示された。

5. 研究倫理・技術者倫理の社会全体への定着

研究者や技術者の倫理は研究現場だけの課題ではなく、中等教育を含めた教育や専門職育成を通じて社会全体に浸透させることが重要であり、研究者・技術者自らが主体的に倫理文化を形成していくことの意義が確認された。

6. 日本社会が有する「プロソーシャリティ」の価値

日本人の利他的・協調的な行動様式（プロソーシャリティ）は、AI時代や国際社会においても重要な資質となり得るものであり、科学技術の発展と倫理を両立させる日本の強みとして評価された。

7. 政治とアカデミアの継続的な対話の重要性

研究環境の改善、人材育成、倫理教育などの課題に対応するためには、政策形成の初期段階から政治とアカデミアが前提条件や制約条件を共有しながら継続的に対話し、具体的な政策へ反映していくことの重要性が改めて確認された。